

フィリップ モリス ジャパン合同会社 「農業未来プロジェクト」における 熊本県及び岩手県での取組について

2025年4月21日



一般社団法人RCF
シニアコーディネーター 新倉綾子

一般社団法人RCF 団体紹介

一般社団法人RCF

2011年4月、東日本大震災からの復興支援団体として発足。

現在は、農業や地域活性化を進める「**社会事業コーディネーター集団**」として、10社以上の企業、30以上の自治体・省庁とともにプロジェクトを推進。

フィリップ モリス ジャパン合同会社 (PMJ) との連携のもと、2018年西日本豪雨災害での愛媛県宇和島市支援、2020年7月豪雨災害での熊本県人吉市支援など協働して復興支援を実施。

2023年6月には「**人吉・球磨農業未来プロジェクト**」、2023年12月には「**いわて農業未来プロジェクト**」を立ち上げ。熊本県人吉・球磨地域、岩手県二戸地域の農産物の情報発信や農家の新規事業を支援。



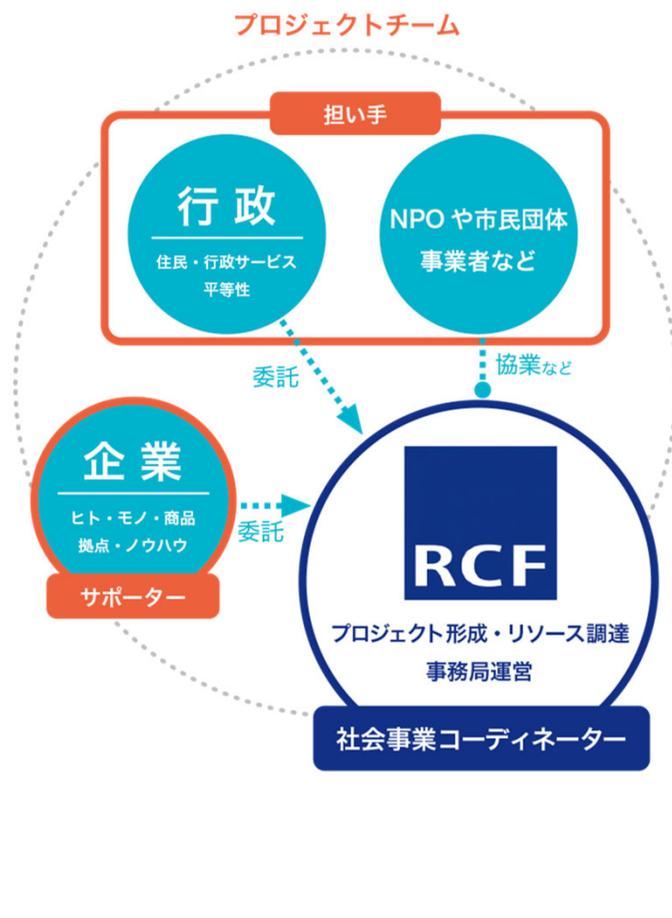
代表理事 藤沢烈 (ふじさわれつ)

マッキンゼー日本支社を経て独立し、NPO・社会事業に特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後、RCFを設立。総務省地域力創造アドバイザー。ふくしま12市町村移住支援センター長、能登官民連携復興センター長を務める。著書に『人生100年時代の国家戦略—小泉小委員会の500日』(東洋経済新報社)、『社会のために働く 未来の仕事のリーダーが生まれる現場』(講談社)、共著に『東日本大震災 復興が日本を変える—行政・企業・NPOの未来のかたち』(ぎょうせい)ほか。



社会事業コーディネーターが担う役割

一般社団法人RCFは、社会課題の解決に向けて取り組む中間支援団体として、**企業・行政・NPO等の連携**を促進し、関係者のビジョンをひとつにし、事業を進めるためのプロジェクト形成、リソースの調達、成果の可視化などの「**コーディネート機能**」を担っている。



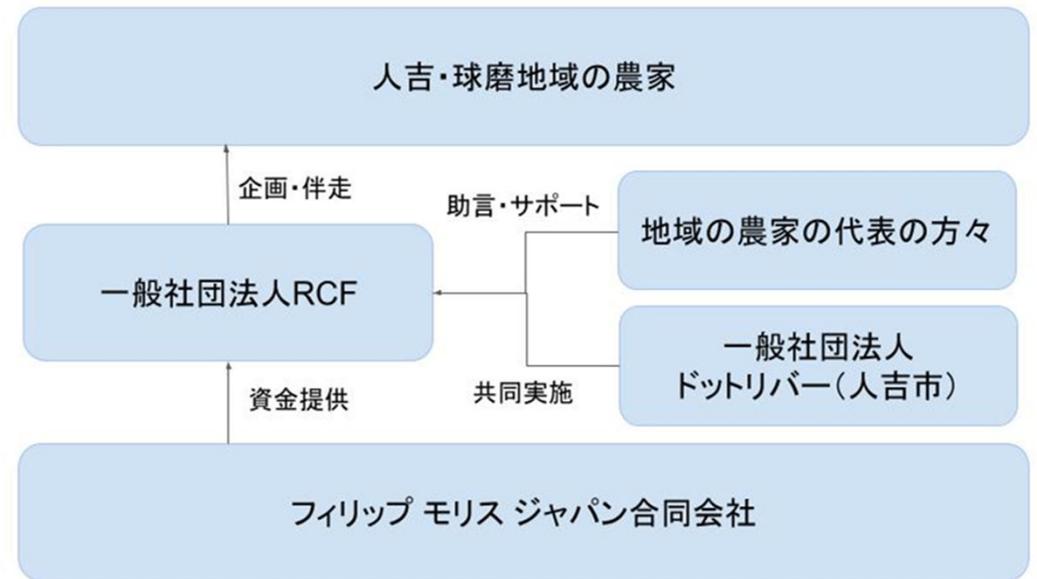
フェーズ	仕事内容
ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・現地に入り込み、現地からビジョンを引き出す ・現地における問題の再定義を行い、現地のキーパーソンと共に計画策定・コンセプトを企画
チーム形成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・行政の巻き込みを通じて、支援企業を含めたチーム形成を実施 ・支援企業からリソース（人・資金・知恵）を調達し、実行に向けた座組みを形成
実行	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマネジメントをサポート ・状況に応じて課題解決を行いながら、ビジョン実現に向けたPDCAを回す
アウトカムの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ノウハウを地域に移転し、継続的に現地が課題解決を行える仕組みづくりを行う ・また行政機関に対して政策提言を行い、他の地域でも同様の成果が出せるようにする

チームをつくる - 人吉球磨・農業未来プロジェクト実施スキーム

PMJは、2020年7月豪雨災害において、熊本県人吉市の復興支援プロジェクトを支援。この際、弊団体が事業推進を担当。その後2023年に、国内の農家支援に力を入れる方針のもと、人吉球磨地域（人吉市、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村の1市4町5村）において**現地団体**等と緊密に連携しながら、**地域の農家**等と対話し、現地の課題に即した事業を構築。



記者発表の様子：
（左から）人吉市長松岡隼人氏、RCF代表理事藤沢烈、
PMJ副社長小林献一氏、
熊本県球磨地域振興局農林部部長宮川和幸氏



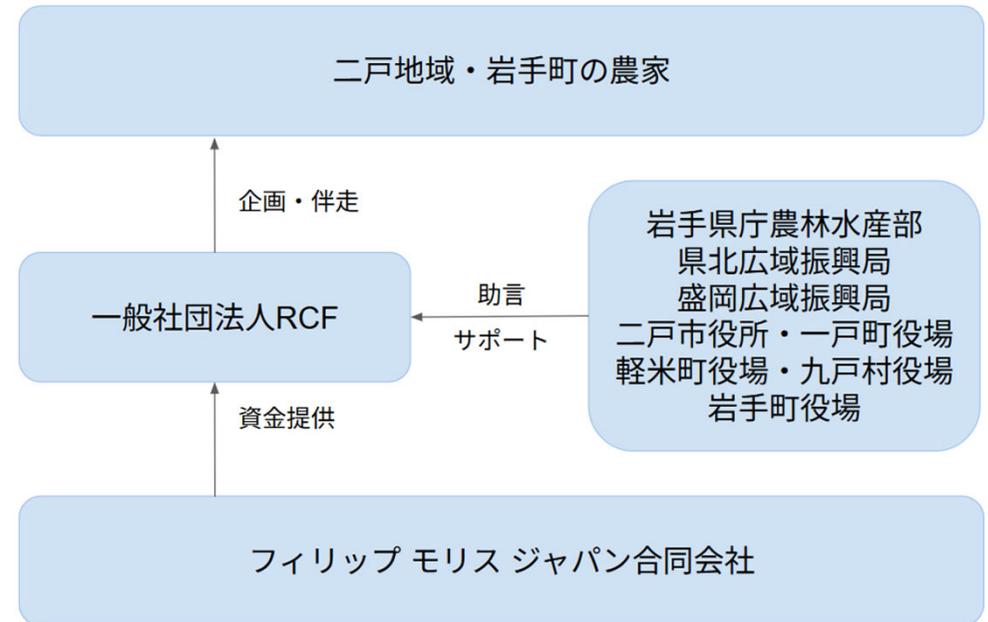
実施体制図

チームをつくる - いわて農業未来プロジェクト実施スキーム

PMJは、2013年に「カシオペア連邦農業振興プロジェクト」を立ち上げ、岩手県二戸地域の農産物の情報発信や農家の新規事業を支援。その際のご縁から、二戸地域の市町村(二戸市、一戸町、軽米町、九戸村)に岩手町を加えた1市3町1村の農業支援を実施中。幅広い**行政機関**の協力を得て、地域の農家の取組の発掘を行う。



岩手県表敬訪問の様子：
 (左から)岩手県一戸町の農家の方2名、
 岩手県知事 達増拓也氏、PMJ副社長 小林献一氏、
 RCF 代表理事 藤沢烈、岩手町農家の方



実施体制
 図

課題を見い出し、事業化する - 地域の農業が抱える課題

PMJの掲げる社会貢献ビジョンのもと、地域農業の未来を共に考えるパートナーとして、地元の行政機関や現地団体等と対話・連携し、農家の抱える課題までアプローチ。担い手不足や生産性向上をはじめとして、**地域の想いを事業の形で具体化**し、伴走支援を行う。



新たなテクノロジー活用、既存ソリューションとの連携、地域内のネットワークなどの観点から

事業化



PHILIP MORRIS JAPAN



取組例① 農業の担い手確保 – スポットワークの活用

農繁期の人手不足は深刻な課題となっていることから、就農者のみならず、スポットワークを活用した多様な担い手づくりを支援。関心のある農家への声掛け等や導入支援を行う。利用促進のため、ポータルサイトを作成して情報発信中。(<https://www.iwateagrijob.com/>)



農繁期の人手不足を
スマホアプリで解決

地域の眠れる労働力を掘り起こす
人手不足をスポットバイトで解決

岩手県二戸市

三右工門

- sannimon -

馬場 淳 さん



田舎なので、本当に申込みが来るのか不安でしたが、登録して2、3日で2名の方とマッチングができ驚きました。

一人の方は、直接で働きたいという申し出があり、今では、月に7、8回ほど、農作業に携わっていただいています。



取組例② ブランドづくり – いわて春みどりの認知向上

質の高い春系品種のキャベツの栽培に取り組む岩手町において、生産者が特産の春キャベツ「いわて春みどり」の首都圏での認知向上を目指していることから、生産者部会や地元農協、岩手町などと対話しながらPR方法を検討し、ラッピングトラックによる首都圏への輸送を実現。



岩手町特産の「いわて春みどり」ラッピングトラックお披露目式の様子

取組例③ 農業者のつながりづくり - 若手農家交流会

現場の課題を抽出し、意欲的な農家が目指す農業の支援や、モデル的な取組に必要な技術・資材の試験導入を行うほか、農家間の相互交流(ミートアップ)等を通じて、ネットワーキングを推進。地域への事業効果浸透を狙う。



ミートアップ集合写真

取組例④ 情報発信 - ポータルサイト等での取組発信

人吉球磨地域、岩手それぞれの地域において、農業の持続性を目指した本プロジェクトの取組内容や、参画している農業者の背景や思いなどを、ポータルサイトにて、発信中。

人吉球磨・農業未来プロジェクト
Hitoyoshi Kuma Agricultural Future Project

知ってもらおう [情報発信事業]
繋がって創り出す [ネットワークング事業]

WITH THE RIVER
RiVER
PHILIP MORRIS JAPAN
RCF

人吉球磨・農業未来プロジェクト ポータルサイト
<https://www.withtheriver.com/>

note
キーワードやクリエイターで検索

いわた農業未来プロジェクト

いわたひろファーム
Iwate HIROFARM
～ひとつひとつ大切に育てています～

循環型農業へのこだわりを共感してくれる消費者に伝える

いわた農業未来プロジェクト 公式note
https://note.com/rcf_agri_iwate

今後に向けて

事業の進行に伴って見えてきた課題に対し、さらに具体化を検討。熊本、岩手それぞれの地域性を踏まえた支援や、事業終了後の「出口」を見据えた取組を推進する。

地域性への対応

各地域の特性に応じたカスタマイズ支援の必要性

持続可能なモデル構築

外部資金終了後の自走モデルへの移行支援

関係者間の連携深化

更なる情報共有・連携強化の仕組み

インパクト評価の精緻化

定量・定性両面での効果測定手法の確立